

国語科学習指導案

指導者 佐々木 絢子

単元名 「故事成語―矛盾―」

単元で育成する資質・能力の重点 思考力・判断力・表現力

- 1 日 時 平成30年11月22日(木) 5校時 場所 1年4組教室
 2 学 年 第1学年4組 (男子16名 女子16名)
 3 単元名 「故事成語―矛盾―」
 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領第1学年「我が国の言語文化に関する事項」の「伝統的な言語文化」「ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。」及び、「C 読むこと」の「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。」を受けて設定したものである。

故事成語は中国の故事から生まれた言葉で、古いものでは二千年以上の歴史がある。本教材で取り上げられている「矛盾」を使い、中国語を日本語として読みこなすために日本人が考え出した訓読の仕方や、後の軍記物語にも影響を与える漢文書き下し文の文体にも親しませ、古典の世界に触れさせたい。

また、日常使っている言葉を振り返ると、名言や名句、故事成語など、中国古典に由来するものが多くある。本教材は、中学生になって初めて触れる漢文であり、今も生活の中に使われる故事成語を学ぶことで、古典への関心を高めることができると考える。そして、故事成語の意味を調べ、それにあてはまる出来事を考え、文章にまとめさせることで、より故事成語が現代に生きていることを実感できるのではないかと考える。

(2) 生徒観

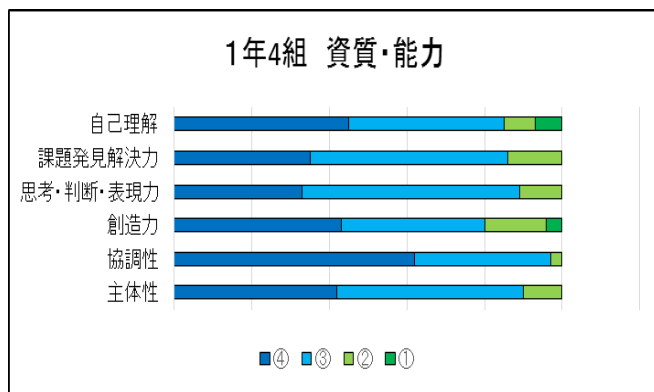
右のグラフは、本校で実施している資質・能力に関する生徒アンケートの結果である。④は「とてもあてはまる」、③は「少しあてはまる」、②は「あまりあてはまらない」、①は「あてはまらない」という評価を示している。

このグラフによれば、思考・判断・表現力の肯定評価はほぼ9割であるが、そのうちの「とてもあてはまる」と回答した生徒は3割程度である。そこで、学習者が自分の持っている知識を活用して、考えを生み出すことができる力を育成したい。

また、協調性の肯定評価が非常に高く、自分の思いを伝えやすい雰囲気や話し合いをしやすい雰囲気が学級にある。ペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働的な学習にしていきたい。

(3) 指導観

この単元では、「故事成語の意味にあてはまる物語を書く」という課題を設定した。「矛盾」を学習した後、辞書や資料集を活用して多数の故事成語の意味や由来を調べさせる。そして、そのうちの1つの故事成語にあてはまる出来事を、自分の体験や日常生活を基に考えさせ、物語を書かせることで、故事成語は遠い昔に中国で生まれた言葉ではあるが、現代の自分たちの暮らしの中にも生きていることを実感させたい。また、身に付けた故事



成語の意味を活用しながら、自分の考えを生み出し、話し合いの中で考えが適切か検討させる。互いの考えを共感的に受けとめつつも、よりよいものができるよう、練り合わせたい。

さらに、中学校で学習する初めての漢文ということで、古典特有のリズムに苦手意識をもたないように、一斉音読やペア音読など音読方法を工夫し、何度も繰り返すことで慣れさせ、親しみをもたせたい。

5 単元の目標

○音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。

【我が国の言語文化に関する事項 伝統的な言語文化 ア】

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。

【C読むこと オ】

6 単元の評価規準

ア. 国語への関心・意欲・態度	イ. 読むこと	ウ. 言語についての知識・理解・技能
①故事成語に関心を持ち進んで由来や意味を調べている。 ②故事成語の意味を理解し自分の体験や日常の出来事と結び付けている。	①文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。	①音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。

7 本単元で育成したい資質・能力の評価基準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
思考力・判断力・表現力	得た知識から適切な事例を考え、具体的に表現することができる。また、話し合いの中で適切な事例であるか根拠をもって判断することができる。	得た知識から適切な事例を考え、表現することができる。また、話し合いの中で適切な事例であるか、判断することができる。	自分の考えのきっかけになる事例を提案する。また考えが広がっていくよう、発問を出す。

8 指導と評価の計画

(全6時間)

次	学 習 内 容	評 価				
		関	読	言	評 価 規 準	
1	故事成語とはどのようなものか確認する。 「矛盾」の基になった漢文を様々な方法で音読する。 「矛盾」の基になった漢文の現代語訳を読み、大体の意味を捉える。			◎	ウ①音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。	行動観察

	今後の学習計画を知り，見通しをもつ。				
	教科書の「矛盾」の四コマ漫画にセリフを入れ「矛盾」が表す意味を考える。		◎	イ①文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにする。	ワークシート
	「矛盾」の意味にふさわしい出来事を考える。	○		ア②故事成語の意味を理解し，自分の体験や日常の出来事と結び付けている。	
	その他の故事成語の意味を資料集を使って調べる。	◎		ア①故事成語に関心を持ち，進んで由来や意味を調べている。	ワークシート
	1つの故事成語を選び，表す意味にふさわしい出来事を考える。 (本時 4 / 6)	◎		ア②故事成語の意味を理解し，自分の体験や日常の出来事と結び付けている。	行動観察 ワークシート
	イ①文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにする。	○		イ①文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにする。	
2	起承転結の構成メモを作り，200字程度で物語を書く。	○		ア②故事成語の意味を理解し，自分の体験や日常の出来事と結び付けている。	ワークシート
	互いに作品を読み合い，評価する。		◎	イ①文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにする。	ワークシート

9 本時の学習

(1) 本時の目標

○故事成語の意味にあてはまる出来事を考える。

(2) 観点別評価規準

◎故事成語の意味を理解し，自分の体験や日常の出来事と結び付けている。 【ア②】

○文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにする。 【イ①】

(3) 準備物

教科書，筆記用具，ワークシート

(4) 本時の学習の展開

	主な発問と学習活動	教師の働きかけ	
		指導上の留意点 (◇)・支援 (*)	評価 (◎) [方法]
導入 10分	様々な故事成語の意味を確認する。 本時の目標を把握する。	◇ペアで問題を出し合わせる。 *前時のワークシートを見るよう指示する。 ◇グループで故事成語カルタをさせる。	
	<p>故事成語の意味にあてはまる出来事を考えよう。</p>		

<p>展 開 35 分</p>	<p>「矛盾」の意味にあてはまる出来事を想起する。</p> <p>自分が選択した故事成語の意味にあてはまる出来事を考える。</p> <p>グループになり，考えた出来事が意味にふさわしいか検討し合う。</p> <p>考えた出来事を全体で交流する。</p>	<p>◇これまでに学習した「矛盾」の意味を確認させ，それにあてはまる出来事，または自分の体験はないか考えさせる。</p> <p>◇故事成語を1つ選ばせ，確認する。</p> <p>◇自分の体験を基にしても良いし出来事を最初から作っても良いことにする。</p> <p>*物語を考えやすい故事成語を薦める。</p> <p>*日常生活について聞き，あてはまる体験があるか引き出す。</p> <p>*出来事の冒頭部分を提案し，結末を考えさせる。</p> <p>◇3人または4人グループで交流させる。</p> <p>◇考えた出来事が意味と合っているか検討させる。</p>	<p>◎ア②故事成語の意味を理解し，自分の体験や日常の出来事と結び付けている。 〔行動観察〕</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<p>物語の基にする出来事をまとめる。</p> <p>次時の確認をする。</p>	<p>◇物語の基にする出来事を，もう一度まとめさせる。</p> <p>◇次時で200字程度の物語にすることを説明する。</p>	<p>◎イ①文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにすること。 〔ワークシート〕</p>

(5) 板書計画

○交流のポイント

自分が選んだ故事成語の意味と体験が合っているか確認し合う。

生徒から出てきた出来事

本時のめあて

故事成語の意味にあてはまる出来事を考えよう。

故事成語―矛盾

思考力・判断力・表現力

社会科学学習指導案

指導者 亀田 和昌

単元名 「地形図の使い方」

単元で育成する資質・能力の重点 思考力・判断力・表現力

1 日 時 平成30年11月22日(木) 5校時 場所 2年3組教室

2 学 年 第2学年3組 (男子20名 女子13名)

3 単元名 「地形図の使い方」

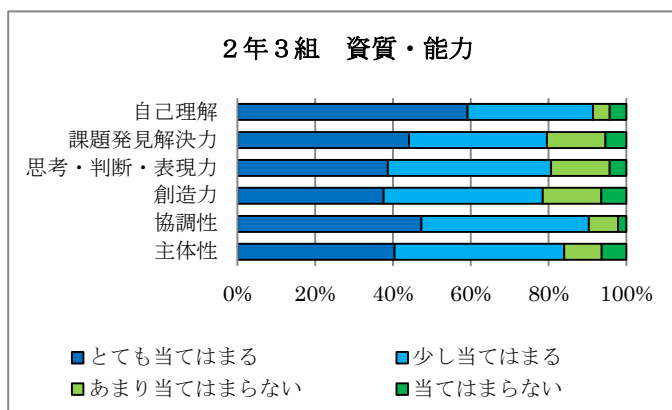
4 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領 社会 地理的分野 2(2)「身近な地域の調査」の内容を受けて設定している。本単元に述べる「地形図の使い方」を身に付けることが出来れば、行ったことがない場所であっても、その場所の地理的概要を大まかに想像できるようになるとともに、生徒たちの生活圏である「三原市」やその周辺市町に対する理解と関心を深めさせ、生活している地域の地理的な見方や考え方の基礎を培うことができる単元となる。ともすると「知識・理解」に偏りがちな社会科において、本単元は、「思考・判断」や「技能・表現」の力を養える良い機会である。本時は、そのために必要となる「地形図」の読み取り技能を身に付けさせようとするものである。

(2) 生徒観

本校の2年生は、社会科の授業を見る限り、授業態度も良く、忘れ物もあまりなく前向きな姿勢で授業に臨む生徒が多い。授業規律の確立に力を入れていた1学期においては、まだ数回しか持っていないが、前任校のころから自主的に取り組んでいる「ペア学習」や「グループ学習」の場面は、一部自己表現しにくい生徒がいるものの、どの班も概ね楽しい雰囲気で見守りながら学習できている。



右の図は本学級の育成すべき資質能力の割合を示したものである。社会科との関連で言えば、思考・判断・表現力に課題があることが分かる。社会科においても「思考・判断」及び「技能・表現」の観点において、グラフ等の資料から得られる情報と他資料から得られる情報と組み合わせるといった力が不十分である。例えば「思考・判断」「技能・表現」の力が問われる「緯度・経度・時差」の学習場面では、少し難しい問題にぶつかると首をかき上げて立ち止まってしまう生徒が見られた。しかしそこに、小グループ形態での学習を取り入れることで多くの生徒が、楽しく、助け合いながら学習する場面が見られた。このことから、思考力・判断力・表現力の育成のためには、学び合いの場を意図的に設け、学習を展開させていきたいと考えている。

(3) 指導観

本来は、校外へ出かけてのフィールドワークなどを取り入れたい学習單元だが、時間的なこと等を考慮して、冬休みへかけての課題として「レポート」に取り組ませる形で学習を完結させる予定である。

本時は、そういった調べ学習のために必要となる「地形図」の読み取り技能を身に付けさせようとするものである。幸い三原市中学校社会科部会では帝国書院と提携し『三原市全図』という5万分の1地形図を作っている。これを一人に1枚ずつ持たせ、身近な「三原市」を題材に取り上げる場面を持つ。地図記号など小学校での既得知識を使って「第二中学校を探してみよう」「筆影山は海拔何メートルかな」など親しみやすい導

入を心がける。そして徐々に「方位」「縮尺」「等高線」「地図記号」などの活用力を身に付けさせていく予定である。ペア学習やグループ学習の場面では、低学力な生徒も積極的に授業に参加する様子がみられ、有効に機能していることが分かっているので今後も継続して取り入れていく。知識・理解の獲得に片寄った学習から「資料活用の技能表現」や「社会的な思考・判断」を主軸とする学習の機会を増やし、いわゆるC評価の生徒に対しても、積極的な学習態度や意欲を生み出したい。

5 単元の目標

- 身近な地域を描いた地形図を取り上げ、地図上で生活圏がどう表現されているかを知る。
- 生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見出し、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養う。
- 市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付ける。

6 単元の評価規準

ア. 社会事象への関心・意欲・態度	イ. 社会的な思考・判断	ウ. 資料活用の技能・表現	エ. 社会的事象の知識・理解
①実際には立体的な地域の様子を、平面な「地図」に表す先達の工夫と努力を想像することができる。	①その施設や土地利用が、なぜそのような地図記号になったのか考えようとしている。	①「地図記号」と「その意味」を双方向で活用できる。東西南北が逆転した地図であっても読み取れる。	①地図記号など小学校での既得知識を活用することが出来る。 ②最低4方位について活用できる。
②自分の生活圏に興味を持ち地形図を読み取ろうとしている。 ③班で協力して指示された場所を探している。	②例えば「写真」と「地図」ではそれぞれ引き出せる情報にどんな違いがあるか考えようとしている。	②「5万分の1」「2万5千分の1」の違いが理解できる。 ③等高線の種類を描き分けて活用できる。	③縮尺の意味について理解することができる。 ④縮尺を使って実際の距離を求めることが出来る。
④方位ゲーム・地図記号を活用したワークシートに、班やグループで楽しんで協力的に取り組んでいる。	③レポートには写真・グラフ・表などの客観的資料が用いられていて、簡潔かつわかりやすいまとめがなされている。	④レポートは等高線や地図記号や方位のルールを踏まえての表現が見られる。	⑤等高線の意味とルールについて理解することができる。 ⑥地形図に表された標高の違いや傾斜を読み取ることが出来る。

7 本単元で育成したい資質・能力の評価基準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
思考力・ 判断力・ 表現力	説明文に合わせて、標高を等高線で描き略図が作れる。 等高線で表された標高を、断面図に書き表すことができる。	等高線の読み取りができる。 等高線から縮尺を類推できる。 標高や傾斜の違いが理解できる。	標高の違いを比較したり、山なのか平地なのかを区別できるように地図に着色させるなど作業的練習を取り入れる。

8 指導と評価の計画

(全4時間)

次	学 習 内 容	評 価					
		関	考	技	知	評 価 規 準	評 価 方 法
1	地形図に親しもう	○				ア②自分の生活圏に興味を持って「三原市」の地形図を読み取ろうとしている。 ア③班で協力して指示された場所を探している。 ◎ エ①小学校での既得知識を活用することが出来る。	行動観察 発表 ノート
2	方位と縮尺について				◎	○ エ②③方位と縮尺の意味について理解することができる。 ○ エ④⑤縮尺を使って実際の距離や地図上の長さを求めることが出来る。 ウ②③「5万分の1」「2万5千分の1」の違いが理解でき等高線の種類を描き分けて活用できる。 ア④ワークシートに楽しんで協力して取り組んでいる。	行動観察 発表 ワークシート
3	等高線と地図記号について (本時3/4)	○				◎ エ⑥等高線を使って標高や傾斜を読み取ることが出来る。 イ①その施設や土地利用が、なぜそのような地図記号になったのか考え、引き出せる情報の違いを考えよ	行動観察 発表 ワークシート

					うとしている。	
4	テーマにそってレポートを作成しよう	○			ア①先達の工夫と努力を想像し、テーマに沿ってまとめることが出来ている。 イ②③学習したルールにそって、簡潔かつわかりやすいまとめがなされて写真・グラフ・表などの客観的資料が用いられている。 ウ④紙面一杯を活用し読み手に訴えかけ、地図記号などのルールを踏まえている。	レポート

9 本時の学習

(1) 本時の目標

- 説明文に沿って仮想の街の地図を完成させる。
- 地図記号を活用することが出来る。

(2) 観点別評価基準

- ◎等高線を使って標高や傾斜を読み取ることが出来る。【エ⑥】
- 地図記号を活用したワークシートに班で協力的に取り組むことができる。【ア④】
- その施設や土地利用がなぜそのような地図記号になったのか考えようとしている。【イ①】

(3) 準備物

三原市全図，等高線模型，地図記号ワークシート

(4) 本時の学習の展開

	主な発問と学習活動	教師の働きかけ	
		指導上の留意点 (◇)・支援 (*)	評価 (◎) [方法]
導入 7分	地形図読み取りのルールのうち前時学習した方位と縮尺について確認。 『三原市全図』を広げ，2～3か所を探させる。	◇簡単な問題に心がけ，苦手な生徒にも発表の機会を与える。	◎イ①その施設や土地利用が，なぜそのような地図記号になったのか考え，引き出せる情報の違いを考えようとしている。 [行動観察]
<p>説明文に沿って，仮想の街の地図を完成させよう！ 【課題解決：時間がなければ宿題】</p>			

<p>展 開 40 分</p>	<p>「等高線」について ・地形図中の指紋のような線のこと。 ・平面な地図に高さを表現する方法。 ・島を横から見て輪切りにした図を板書し、それを模型で見せて説明。 ・傾斜の違いを、ビー玉を模型上で転がして、説明をくりかえす。 ・線と線の間が狭い＝急傾斜と認識させる。 ・等高線には種類がある。</p> <p>「地図記号」について ・教科書や資料集に掲載された地図記号の一覧を見せ、小学校での学習も思い出す。 ・ワークシートを教師が読む。 ・ワークシートを班で協力してやる。</p>	<p>◇『三原市全図』の筆影山のところを活用</p> <p>◇模型を活用</p> <p>◇実際に転がしてみる</p> <p>*ここまでの板書で整理する。</p> <p>*教科書 p 138 資料集 p 20 などを活用</p> <p>・『三原市全図』を活用</p> <p>・班机の形にさせる。</p>	<p>◎エ⑥等高線を使って標高や傾斜を読み取ることが出来る。 〔行動観察〕</p> <p>◎ア④ワークシートに楽しんで取り組んでいる。 〔行動観察〕 〔ワークシート〕</p>
<p>ま と め 3 分</p>	<p>地形図読み取りの4つのルール 【方位・縮尺・等高線・地図記号】を確認しよう。</p>	<p>◇まず生徒自身の挙手発表を促し難しいようなら教師がまとめる。</p>	

(5) 板書計画

<目標> 説明文に沿って仮想の街の地図を完成させよう！ 思考力・判断力・表現力

○ 地形図読み取りのルール1 「方位」
原則として“上が北”

○ 地形図読み取りのルール2 「縮尺」
“25000分の1”と“50000分の1”が基本

<本時>

○ 地形図読み取りのルール3 「等高線」

	主曲線	計曲線
25000分の1	10mごとに 	50mごとに
50000分の1	20mごとに 	100mごとに

○ 地形図読み取りのルール4 「地図記号」
教科書 p 138や資料集 p 20を見て、学習しよう！

英語科学習指導案

指導者 難波 未来

単元名 「LESSON6 I Have a Dream (New Crown Series 3)」

単元で育成する資質・能力の重点 課題発見・解決力

1 日時 平成30年11月22日(木) 5校時 場所 英語教室

2 学年 第3学年1組 (男子21名 女子19名)

3 単元名 「LESSON6 I Have a Dream (New Crown Series 3)」

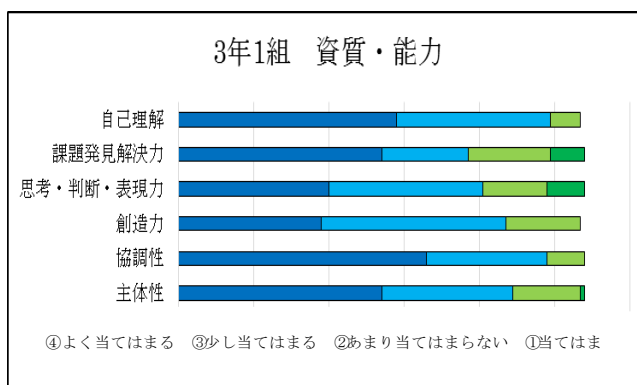
4 単元について

(1) 単元観

本単元は、キング牧師の行った奴隷解放運動のスピーチについての Reading 教材と、アメリカの公民権運動についての実際のエピソードを読むことを通して、人権についての大切さを考えることができる。夢を持ち、その実現に向けて努力し、実際に自由を勝ち得た人物やその功績を紹介することで、夢を持つことや自身の主張を表現することの重要性と難しさを同時に理解することができる。また、本単元の USE Write では、著名な人物をエピソードを交えて紹介する記事を作成する。これにより、出来事を要約してまとめた文章を書く力を身につけることができる。また、本単元の Let's Listen5 では実際のケネディ大統領のスピーチを聞き、話し手の意図や主張を読み取る力を育てる。

(2) 生徒観

4月に実施した各クラスの実態分析より、以下のような結果が出ている。協調性の項目に対し肯定的評価がおおよそ9割を超えており、非常に高い数値を示している。その一方で、課題発見・解決力や、思考・判断・表現力といった、ある課題に対し多様な見方や考え方で対応したり、解決策を考えたりすることにおいて苦手だ、あるいはできていないと感じている生徒が全体の2割程度いることも明らかになった。



他者と協働して課題に取り組むことや小集団活動においては意欲的に取り組み、教え合いや学び合いを通して学びの深化をはかることもできるようになった。この雰囲気を大切にしながら、できるだけ多くの考えや意見を短時間で交流できるような話し合いの場を多く設けていきたい。

(3) 指導観

本単元で扱う文法項目は後置修飾である。高校入試でも頻出であるので、ドリル学習や英作文問題等を通して、早急に定着をはかりたい。この後置修飾を用いて、主に「まとまりのある文章を読み取ること」と「文と文のつながりに注意して、まとまりのある文を書くこと」にアプローチして、指導を進めていく。まずは、説明されている対象に関する情報を整理し、次にまとめ、最後に要約して Writing の活動につなげていけるよう、インプットとアウトプットの割合も意識しながら指導をしていく。Writing の指導の際、表現するためのモデルとして、結論先行型の Point・Reason・Example・Point (PREP) を意識させ、自分の意見を簡潔に述べて理由を説明することや、具体例や経験に照らして正当性を主張することを主に指導する。また、上記の課題である、課題発見解決力や、思考・判断・表現力の育成にも留意し、個人思考の場面と、小集団活動やペア活動の場面とのメリハリをつけた授業展開をしていく。また、本時では国語科で扱うブックトークの単元にも触れることで、より教科横断的な指導を心がける。

5 単元の目標

○後置修飾の形を理解し、状況に応じて適切に使用して自己表現ができる。

6 単元の評価規準

ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ. 外国語表現の能力	ウ. 外国語理解の能力	エ. 言語や文化についての知識・理解
①自ら課題を発見し、解決に必要な道筋を立てている。 ②自分の考えや物語の内容を英語で表現しようとしている。	①内容的にまとまりのある文章を書くことができる。	①筆者の主張や大切な部分などを読み取ることができる。 ②まとまりのある英語を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。	①後置修飾に関する知識を身につけている。 ②接続詞やつなぎ言葉を効果的に活用できる

7 本単元で育成したい資質・能力の評価基準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
課題発見・解決力	課題に対し必要な要素を考え、それらに即した内容を英語で表現できる。	物語のあらすじを包括的に理解し、その内容に即した要約文を英語で表現できる。	与えられた例文の中から活用できるものを選び、主語等を変えて英語で表現する。

8 指導と評価の計画

(全10時間)

次	学 習 内 容	評 価				評 価 規 準	評 価 方 法
		関	表	理	知		
1	GET Part1 (1) 後置修飾Ⅰ導入				○	エ①後置修飾に関する知識を身につけている。	ワークシート 後日テスト
2	GET Part1 (1) 本文の内容理解				○	ウ①筆者の主張や大切な部分などを読み取ることができる。	行動観察 ノートの記述
3	GET Part2 (1) 後置修飾Ⅱ導入				○	エ①後置修飾に関する知識を身につけている。	ワークシート 後日テスト
4	GET Part2 Practice (1) お気に入りの本の帯を書こう。(本時4/10)	○				ア①自ら課題を発見し、解決に必要な道筋を立てている。 イ①内容的にまとまりのある文章を書くことができる。	行動観察 ワークシート
5	GET Part2 (1) 本文の内容理解				○	ウ①筆者の主張や大切な部分などを読み取ることができる。	行動観察 ノートの記述
6	USE Read (2) 本文の内容理解				◎	ウ①筆者の主張や大切な部分などを読み取ることができる。	行動観察 ノートの記述
7	USE Write (1) 人物を紹介する記事を書こう。		◎			イ②内容的にまとまりのある文章を書くことができる。 エ①後置修飾に関する知識を身につけている。	行動観察 ワークシート
8	Let's Listen5 (1)				◎	ウ②まとまりのある英語を聞き	行動観察

	英語のスピーチ				て、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。	後日テスト
9	Let's Talk4 (1) 玉子料理はいかがですか			○	エ②接続詞やつなぎ言葉を効果的に活用できる。	ワークシート

9 本時の学習

(1) 本時の目標

○内容に即した要約文を英語で表現する。

(2) 観点別評価規準

◎語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

【イ①】

○自ら課題を発見し解決に必要な道筋を立てている。

【ア①】

評価方法：ワークシート

(3) 準備物

教科書，ワークシート，スタディノート，電子黒板

(4) 本時の学習の展開

	主な発問と学習活動	教師の働きかけ	
		指導上の留意点(◇)・支援(*)	評価(◎) [方法]
導入	帯活動 『1分間チャット』 TOPIC:About my favorite book.	ペアで1分間TOPIC内容について即興的に英語で会話をする。 *会話を始める文を提示する。	◎ [行動観察]
10分	お気に入りの本の帯を書こう。		
展開	帯に必要な要素を考える (個人思考の後全体で共有)	《予想される答え》 作者のプロフィール，簡単なあらすじ話の感想，登場人物など キャッチコピーを一程度入れると効果的であることを提示。	◎ア①自ら課題を発見し，解決に必要な道筋を立てている。 [ワークシート]
35分	マインドマップ作成 (個人思考からペア活動)	◇生徒の実態により個人思考を省略する。 ◇応用可能な例をピックアップして共有する。	
	帯作成 (個人思考)	*難しい生徒にはまずは日本語で書くよう指導する。	
	帯添削，改善 (集団思考)	◇質問や改善点，参考になった点などを記入する。	
まとめ	紹介文再考 (個人思考)	◇よりよくするための手立てとして，班員のコメントを参考にするよう指導する。 *コメントはニュアンスが伝わりくければ日本語でも可とする。	◎イ①内容的にまとまりのある文章を書くことができる。 [ワークシート (清書)]
5分	まとめ		

(5) 板書計画

Goal お気に入りの本の帯を書こう。 課題発見・解決力

Thursday
November
twenty-second
sunny

手順

- 1, 必要な要素
- 2, 情報整理
- 3, ポイント思考
- 4, キャッチコピー

1, 必要な情報

作者の経歴, 作品のよさ, あらすじの要約, 自身の感想, 受賞した賞の種類など

2, 情報整理

マインドマップにて思考整理

3, ポイント思考

キャッチコピーに採用する本のおすすめポイントを選択

4, キャッチコピー作成

シンプルでメッセージ性のあるものを採用。
(例を提示)

5, 本の帯を作成

絵や表現方法などを工夫する。